

**平成26年度未来経営戦略推進経費
(教学改革推進のためのシステム構築・職員育成に係る取組み) 採択事業**

法人名	佐久学園	学校名	佐久大学
------------	-------------	------------	-------------

表題	IR 構築を通じた教職協働による大学改革の推進と IR を牽引する職員の育成
-----------	-----------------------------------------------

取組みの概略

○目的

本学は、大学改革を進める上で、より透明性と精度の高い情報収集と分析を可能とし、迅速かつ一元的に管理できる IR 体制の構築に取り組んでいる。

本学 IR は、管理運営・教学マネジメントの情報収集及び分析を全学的な取り組みとして行い、教育の質の保証(PDCA サイクル)の一端を担うものである。

本取組においては、IR システムの導入及び職員の育成を通じて、本学の環境に合った IR 活動の確立を目指し、質の高い情報提供を可能にすることによって、学長等の意思決定をより円滑にし、学びの質保証への具体的改善方策や学修支援の開発といった教学改革を進めることを目的とする。

○調査分析するデータの内容と活用方法（教学改革への反映状況）

【収集・分析するデータ】

- ・本学内データの積極的分析を可能とするため、情報の統合データベース化を行う事を前提に、学内データを収集する。
- ・既に学内で収集、利用されている学生の基本情報や成績、GPA 等の、学生の入学前から卒業後までのデータを一元管理するため、現在システム化されている学務・財務データを始め、新規導入する入試システムや学内の各端末に散在しているデータ(Excel, csv, ログファイル等)を統合情報データベースに集約する。
- ・学生実態調査などのデータも可能な限り一元化を進め、多面的な分析、比較を行うために、調査の内容は随時各委員会が連携、実施し、新たなデータの追加を行っていく。
- ・用途に応じて図、グラフ等の可視化を進め、誰もが理解し指標として使える分析資料の作成を行う。

【分析方法】

- ・集約されたデータを使って現状の就学状況の把握、過去データを使用した傾向・分類・分布などの情報を分析する。
- ・分析手法としては主に BI ツールを利用し多元的に分析するが、必要に応じてその他統計ソフト(SPSS, Access, Excel 等)を適宜利用しマイニングを行う。
- ・基本分析項目としては大きく入試傾向分析・履修傾向分析・就職情報分析・財務分布等とするが、仮説立案に必要となるデータについては適宜、分析を行っていく。

【教学改革への活用】

- ・データを収集・分析するという過程において、学内データの管理・蓄積方法の整理を行う。この作業を通して、調査の重複、不足分を把握し、教学改革 PDCA の一環とする。
- ・本学 IR の教育的活用方法として、エンrollment・マネジメントと学生在籍率への活用を目的とする。また、各種データを組み合わせることにより、今まで見えてこなかった学内情報を導き出し、意思決定の支援に資することを目的とする。
- ・分析データにおいて全国平均と比較することで、本学の特長、課題の把握に努める。また、全学的に情報を共有するシステムの構築を行い、教職一丸となった改革を進める。
- ・これらのデータを基に、現状把握や傾向、原因等の情報を可視化し、より有効な大学 FD への活用、教育・研究・学修支援の改善方策、計画立案に繋げ、学生満足度の向上、学生の確保・維持、地域の理解へと発展させていく。

○実施管理体制

【実施・管理体制】

- ・教職協働で実質的に機能する IR を構築するために、本学園に IR 委員会を設置。各大学、短大の教職員が委員として参加し協議を進めている。
- ・委員会は、管理運営、教学マネジメントについての意思決定を支援する為の情報収集・提供・分析及び集約・管理方法に関する事項を協議し、IR 機能の確立を図っていく。
- ・IR 活動は、各委員会との連携のもと調査・分析を行う。特に自己点検・評価委員会と密な連携を取り、アンケート等の見直し、分析方法の検討、新たな調査の追加などを行っていく。

【IR の実務】

- ・IR 委員会に参加している職員が、本学 IR の意向を基に IR 担当者として、データベース等のシステム構築、各部局との調整・周知を行っていく。
- ・システムの構築とともに段階的にデータ管理と IR 体制を整え、学内に浸透させる。
- ・学内に散在する情報の収集・蓄積を行い、IR 専用端末に集約する。IR 関連システム及びデータを扱う可能性がある環境はセキュリティを強化する。
- ・データを扱う者の権限も制限をかけ、秘匿性の高い情報が物理的にも人的にも意図しない流出を防ぐ環境整備を行う。

【評価体制】

- ・IR 活動の評価は、各機関に意思決定に関わる支援として IR 機能が活かされているかという視点から行う。
- ・IR 活動は大学の自己点検・評価活動の PDCA サイクルの Check を担い、収集された情報及び分析されたデータが実質的に自己点検・評価委員会のサイクルで運用されているか、また、教学改革を推進する上で有効な資料となったかという視点からも評価を行う。
- ・評価を基に、IR 委員会において IR 体制の再構築や計画の見直し等を行い、より本学に合った IR 体制が確立できるように常に PDCA サイクルを回していく。

○職員の能力向上

IR 委員会の設置により、「IR」への理解・必要性は高まっている。

今後の IR 体制の構築・運用を進める上で重要な、IR を理解し教学マネジメントと結びつけて各業務に反映できる職員の育成を行う。

【IR をリードする職員の育成】

- ・IR を意思決定に関わるような説得力のある情報源として活用するために、本学 IR を概念的にリードできる職員の養成を行う。
- ・IR リーダーは教員とともに、対等な立場で IR の構築を進め、学内に浸透させるため、各種研修会等に参加し、知見を広め、専門知識の習得に努める。
- ・研修等の報告を FD、SD を通じて学内に共有、議論し、学内全体の知識の深化、教職員への周知と相互の能力開発を促す。

【IR 担当者の育成】

- ・本学 IR の方針のもと、データの集約、分析等を行う IR 実務担当者を育成する。
- ・IR 担当者は、目的に応じた適切な分析方法を判断し、必要な情報から統計分析を行う能力を養うため、学内外の研修、勉強会に参加し、実務を通してスキルの習得、向上を図る。

【セキュリティ能力の育成】

- ・IR に関わる者は、秘匿性の高い情報に触れる可能性があるため、研修会等に参加し、情報セキュリティ能力の養成を行っていく。
- ・IR 担当者は、本学の ICT システム担当者とともに情報セキュリティ体制を検討、構築し、学内に周知すると共に、その運用にも関わっていく。

【IR 体制の発展】

- ・IR の能力養成は担当者に限らず、各部署に基礎的能力を持った職員を複数人養成することを目指す。
- ・本学に適した IR 体制を構築するために、IR リーダーを中心として各分野の分析を行う教職員の手法を共有、検討することで、相互の能力向上と補完、全学的な IR システムの向上を図る。

以上の取組を通して、教職協働体制で本学に適した IR システムを学内に構築し、教学改革を推進する計画である。

図：学園 IR フロー

